

道路愛称名路線の主な史跡及び由来 (1/4)

番 号	道路愛称名 (延長)	主な史跡及び由来	沿線商店街
1	深川資料館通り (970m)	元区役所があったため区役所通りと呼ばれていた。 深川江戸資料館(1986年開館)があり江戸時代の深川の町並みや、そこで暮らす人々の生活や営みを、現代に再現している。 ○霊巖寺(松平定信の墓)・成等院(紀伊国屋文左衛門の墓)	深川資料館通り商店街
2	美術館通り (830m)	東京都現代美術館(世界都市東京の国際的な文化交流拠点として平成7年開館)にちなんで名付けられた。 ○木場公園(面積24.2ヘクタール)	扇南商店会
3	越中島通り (1,450m)	榊原越中守の別邸があったことから町名になったと言われている。 ○越中島練兵場の旧跡(現東京海洋大学) ○海洋大学内に我が国に現存する、唯一の鉄製帆船明治丸が展示されている。	
4	大門通り (2,770m)	洲崎遊郭跡(明治21年～昭和33年)洲崎の大門から吉原の大門に通じる道と言われ古くから大門通りと呼ばれていた。 ○洲崎弁天の名勝(広重はじめ錦絵・江戸名所案内書に描かれている。)	東陽商店街・大門商店街 東陽弁天商店街
5	神明通り (360m)	天祖神社(大塚新田の鎮守―神明社として祀られた)はもと神明様と呼ばれ深川神明の分社で、氏子は四十丁の鎮守とされている。 ○舟入川跡(昭和13年～15年にかけて埋め立てられた。)	葛西橋神明通り会
6	仙気稲荷通り (210m)	疝気稲荷(1659年)創設。昭和42年千葉県に移転したが、地元町会によって旧跡保存のため、稲荷小祀が建立された。	仙気稲荷通り会
7	元八幡通り (850m)	富賀岡八幡神社(元八幡)は歌川広重の「江戸名所百景」や「江戸名所図会」にも描かれている観光名所。 ○神主が深川八幡と兼務していた。	元八幡通り商栄会
8	水神通り (550m)	通りの愛称となった水神宮(1528年創立)は、水田開拓の際、堤防の突端に建立し、水難、干ばつを防ぐ神社として祀った。	亀戸水神通り会
9	こうづけ堀通り (250m)	現北砂3丁目付近に吉良上野介の下屋敷があったといわれ、その付近にあった溝は大正年間まで、こうづけ堀と称されていた。	

道路愛称名路線の主な史跡及び由来 (2/4)

番 号	道路愛称名 (延長)	主な史跡及び由来	沿線商店街
10	釜屋堀通り (500m)	釜屋跡(1640年)江戸時代釜屋六右衛門、七右衛門の二人の鋳物師が鍋、釜などの製造をてがけていた。その前の堀を釜屋堀といった。 ○化学肥料創業記念碑(我が国で最初の人造肥料製造)	
11	牡丹町通り (800m)	江戸時代に旧徳島藩松平阿波守の別邸があり、その屋敷内や付近に牡丹を栽培する家が多いところから、牡丹町という町名がついたと言われている。	牡丹町笑栄会商店街
12	住吉銀座通り (150m)	銀座は賑わいの象徴であり、中央区の銀座にあやかった。	住吉銀座商店街
13	高橋夜店通り (680m)	小名木川に架かる高橋のたもとに定期便の船着場があり、繁華街として栄えた。夜店がでるようになったのは、明治40年頃で、また、江東電気館という活動写真の常設館ができ、永花亭という講談定説の寄席もあって賑わった。 ○区内初の歩行者天国を実施した。(通称高橋のらくろード)	高橋商店街
14	亀戸五丁目中央通り (610m)	亀戸五丁目の「真ん中」を走っている道路であり判りやすく、中央は全てが注目する(人が集まる所)との意から名付けられた。	亀戸五丁目中央通り商店街
15	旧千葉街道 (2,400m)	元佐倉道とも呼ばれ、両国橋から豎川沿いを東へ進み、逆井・小岩、市川、佐倉へと至る街道で、江戸と下総を結ぶ重要な交通路であった。	
16	サンロード中の橋 (410m)	旧中の橋商店街。10年前頃、横文字のハイカラな名称が話題を呼んでいたのが会員から募集し決めた。	大島中の橋商店街
17	大島中央銀座通り (850m)	新大橋通りが出来る前は、千葉街道に直結していた唯一の道路であって、これが中央という名前の由来。銀座は中央区の銀座にあやかって付けた。	大島中央銀座商店街
18	砂町銀座通り (1,000m)	昭和7年頃、砂町平和会商店街と呼ばれていたが、地元の名士の提案で柳並木で有名な日本一の商店街「銀座通り」に触れ、夢と希望を語られ、これに因んで命名された。	砂町銀座商店街
19	万年橋通り (660m)	広重「江戸名所百景」・北斎「富嶽三十六景」に描かれた名所。 ○船番所跡、元船番所ともいう。大島9丁目中川口に移転。 ○芭蕉記念館…俳人松尾芭蕉は延宝8年(1680年)深川の草庵に移り、元禄7年(1694年)51歳で没するまで、この地を拠点として旅の生活を送り、名句と紀行文をのこした。	

道路愛称名路線の主な史跡及び由来 (3/4)

番 号	道路愛称名 (延長)	主な史跡及び由来	沿線商店街
20	末広通り (1,000m)	末広がりのように先々が広がる(発展)ことを願って命名した。	末広通り商店街
21	永代河岸通り (600m)	この付近は漁師町で、漁業や海苔の養殖などで栄えていた。 ○深川魚市場(永代2-12)が明治13年頃まであり、関東大震災後築地に移転。	
22	佐賀町河岸通り (700m)	深川浜(1629年)上之橋から隅田川沿い越中島付近にかけて築立て深川南部地域が開かれた。この付近を総称して獵師町と言った。 ○セメント工業発祥の地。中州の渡しの跡。	
23	大島銀座通り (190m)	戦前からの呼び名であった。中央区銀座が有名なので、その名にあやかった。	大島銀座通り会
24	恵比寿通り (340m)	「恵比寿」…商売繁盛の神様にあやかり命名。	大島恵比寿通り商店街
25	四十町通り (320m)	東砂6, 7丁目(八郎右衛門新田)。東砂8丁目(砂村新田)。これらの新田は、大正10年砂町となったが、八郎右衛門新田のみ明治28年四十町と改名し、舟入川を挟んで向かい合った50軒ほどの家によって構成されていた。	
26	一の橋通り (310m)	万治2年(1659年)中川と隅田川を結ぶ堅川の整備が始められ、西側から一の橋、二の橋と順番に橋が架けられた。 ○赤穂浪士が討ち入後、回向院から一つ目橋(一の橋)を渡り隅田川に沿って小名木川の万年橋、上之橋、永代橋を渡り泉岳寺へ向った。	二の橋…清澄通り 三の橋…三ツ目通り 四の橋…四ツ目通り 五の橋…明治通り
27	琴平通り (830m)	金毘羅神社旧跡(古石場2~5)。この付近に漁師が多く住んでいたため、航海神を祀った「金毘羅神社」があり関東大震災までは、よく賑わった。橋名に琴平橋とあるのは、このためである。	
28	小松橋通り (1,430m)	この路線は、住吉銀座通りを経て小松橋地区14町会を結んでおり、名称は連合町会で要請し決定した。 ○猿江神社。子育て地藏。重願寺。宇迦八幡宮。	

道路愛称名路線の主な史跡及び由来 (4/4)

番 号	道路愛称名 (延長)	主な史跡及び由来	沿線商店街
29	亀戸浅間通り (740m)	浅間神社の社伝には、大永七年(1527年)建立とある。神社境内に有形民俗文化財「富士塚」がある。再開発により浅間神社も沿線に移設された。	
30	深川芭蕉通り (340m)	俳人の松尾芭蕉は、延宝8年(1680年)、深川(現在の常盤)に庵を構え、蕉風と呼ばれる俳諧を確立しました。この愛称名には、「深川と芭蕉との深いつながりを後世にも伝えていきたい」という地域の皆さんの願いが込められている。	
31	砂町文化センター通り (大師通り) (550m)	砂町文化センターへのアクセス道路としての通行が多く、利用者の道しるべとして設定。また古来より持宝院は厄除寺として信仰を集め参拝者の通行路として大師通りの名称が親しまれてきたことからあわせて設定した。 ○持宝院	砂町銀座商店街
32	清澄庭園・中村学園通り (500m)	清澄庭園は都内屈指の名園であり、当路線を通る利用者への道しるべとして設定。また中村学園は由緒ある学校であり、地域に親しまれていることからあわせて設定した。 ○清澄庭園	
33	深川モダン館通り (182m)	「深川東京モダン館」は、歴史的文化施設であり、その歴史的意義を後世に伝え深川を訪ねる多くの人達に「深川東京モダン館」の存在をより良くアピールするために設定した。	
34	塩浜通り (1330m)	既に地域住民において自然発生的に「塩浜通り」の呼称がなされ、通称名として定着されつつあるため、道路愛称名として設定した。	
35	潮見通り (840m)	既に地域住民において自然発生的に「潮見通り」の呼称がなされ、通称名として定着されつつあるため、道路愛称名として設定した。	